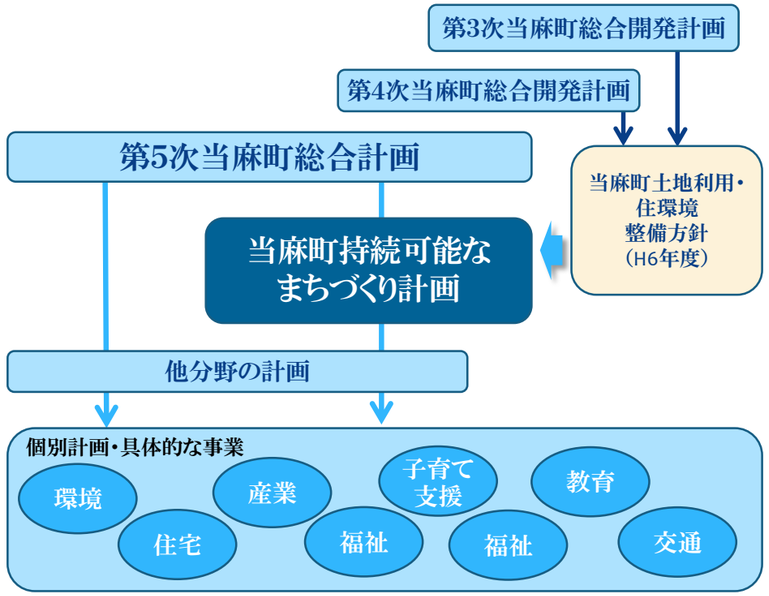
◆当麻町　持続可能なまちづくり計画　概要版

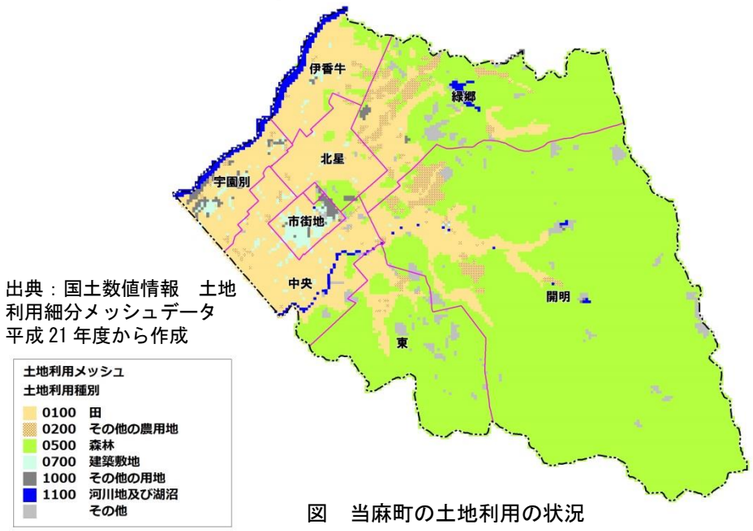
１．持続可能なまちづくり計画とは？



●本計画は、本町の行政上の最上位計画である「第５次当麻町総合計画」の施策のうち、土地利用や住環境、道路交通など社会基盤の整備や維持・利活用に関する分野について中長期的（概ね 20 年後まで）の取組の方向性を示す指針となるものです。

●今回の計画は、人口減少や高齢化、経済の縮小という問題を抱えながらも、地域で将来にわたり住み続けるための、「持続可能なまちづくり」について、当麻町としてのあり方を示す意味で本計画の名称としています。

２．当麻町の現状①　土地利用等



出典：国土数値情報　土地利用細分メッシュデータ
平成 21 年度から作成

図　当麻町の土地利用の状況

●土地利用の状況をみると、行政区域の北西部は田をはじめとする農地、東部・南部を山林が占めています。田は２割、山林は６割を占めています。

●市街地は行政区域北西部、農地に囲まれるように広がっています。

●地目別面積では、山林が６割、田が２割を占めています。宅地は全体の２％程度です。

表　当麻町の地目別面積の状況

	総面積	田	畑	宅地	山林	原野	雑種地	その他
面積	204.95	42.54	6.36	4.01	122.39	4.28	1.92	23.46
構成比	100.0	20.8	3.1	2.0	59.6	2.1	0.9	11.5

３．当麻町の現状②　人口等

●当麻町の人口は、減少傾向にあり、平成 22 年は 7,087 人、20 年前（平成２年：8,383 人）の 85%程度となっています。これまでの趨勢からすると（当麻町人口ビジョン）、平成 47 年には 5,158 人まで減少すると推計されています。

●高齢化も更に進行し、このままだと 20 年後は老年人口の割合が 40%強に上昇することが推計されます。

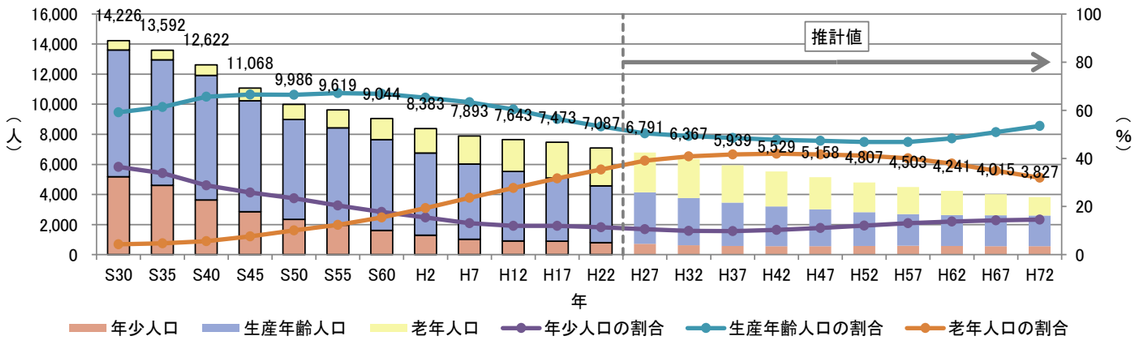


図　年齢別（3 区分）人口・割合の推移

４．当麻町の現状③　まちづくりの取組（主なもの）

道の駅とうま（平成 10 年）

田んぼの学校（平成 27 年）

消防庁舎（平成 27 年）

公営住宅駅前団地（平成 22 年）

くるみなの庭・散歩道
（平成 27 年）

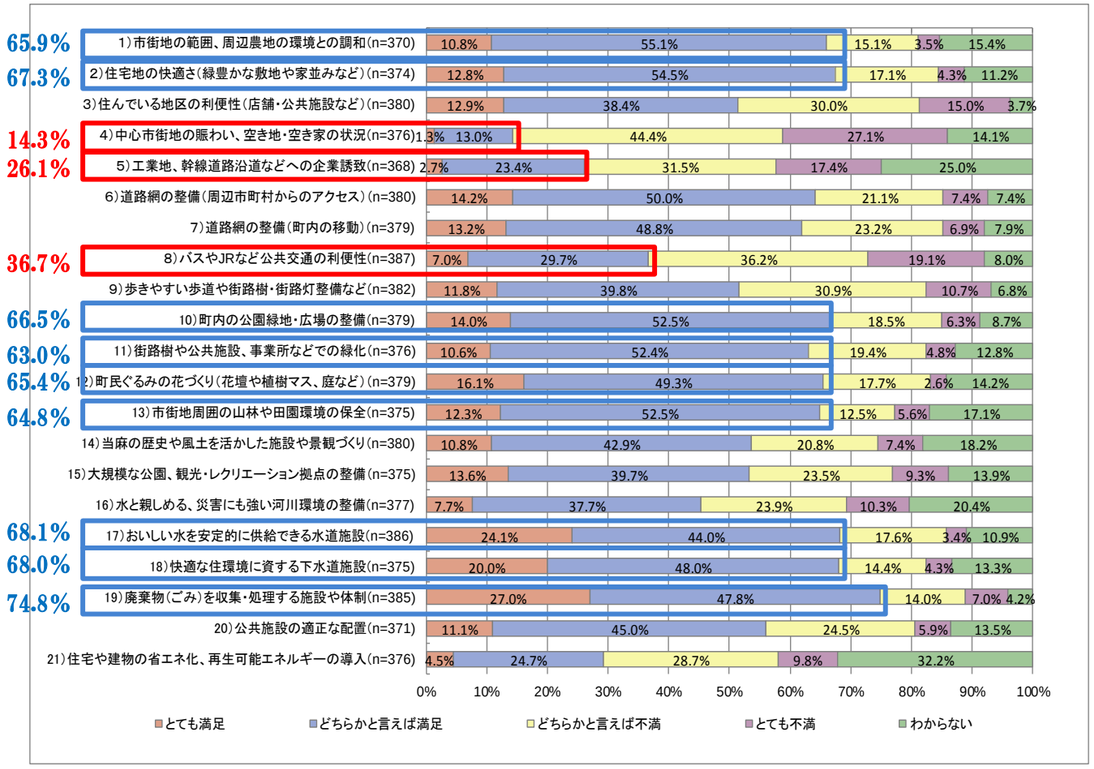
公民館「まとまーる」
（平成 26 年）

５．当麻町の現状④　アンケート調査より

●まちづくりの満足度

高い：　・環境との調和、住宅地の快適さ、緑化、花づくり、山林や田園環境の保全
　　・廃棄物（ごみ）、水道、下水道施設

低い:　・中心市街地の賑わい、空き地・空き家の状況　　・工業地、幹線道路沿道への企業誘致
　　・バスや JR など公共交通



●関心のあるまちづくりのテーマ

・「買物や医療・福祉」、「企業の誘致」、「公共交通」、「子育て支援」、「農産物や地域材を活用」が多くを占めています。

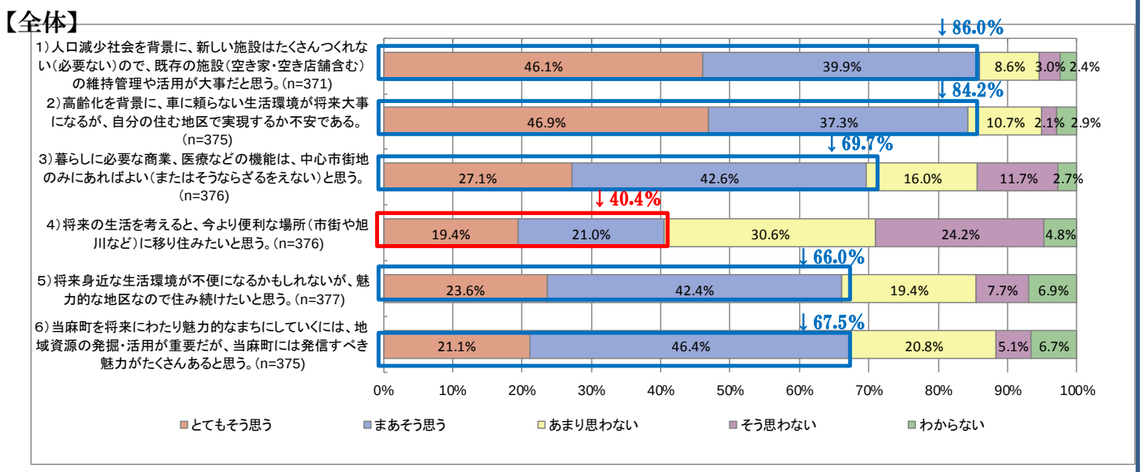
	1位	2位	3位	合計	順位
1）買い物や医療・福祉サービスの充実	90	28	24	350点	1位
6）店舗や工場など、企業の誘致の強化	42	36	34	232点	2位
2）バスなど公共交通の充実	32	38	12	184点	3位
4）保育など子育て支援の場の充実	30	25	17	157点	4位
11）農産物や地域材を活用した「６次産業」の推進	17	32	27	142点	5位

６．当麻町の現状⑤　アンケート調査より

●今後のまちづくりについての町民意識

・都市部への移住需要は、比較的高い。一方、将来の不安を感じつつも定住継続意欲が 66.0%。
・既存施設の維持・活用によるまちづくりを進めることについては、85%が賛成しています。
・町の機能の中心市街地へ集中することについては、69.7%が賛成、27.7%が反対です。
・発信すべき町の魅力がたくさんあることについては、67.5%が賛成（そう思う）と回答しています。

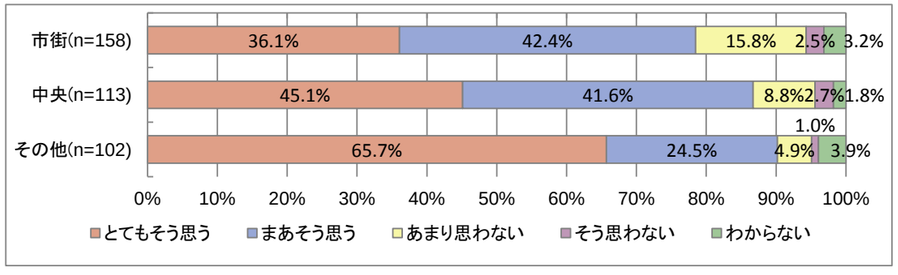
【全体】



●今後のまちづくりについて

・将来の生活利便性への不安は、郊外で高くなっています。

「２）高齢化を背景に、車に頼らない生活環境が将来大事になるが、自分の住む地区で実現するか不安である。」について地域別に分析



７．社会ニーズの整理

【社会経済状況の変化】

○人口減少、少子高齢化への対応
- 地方創生（地方人口減少抑制策）
- コンパクトなまちづくり
- 健康増進、安心して暮らせるまち
- 多世代交流

○地域資源の活用
- 都市と農村の交流（グリーン・ツーリズム）
- 食育・木育・花育
- 6次産業化、食や農のブランド化、ふるさと納税
- 交流機能の充実（観光施設、イベント、自然とのふれあい、外国人観光客受入等）

○生活環境への対応
- 老朽化した施設・インフラの更新
- 省エネ・低炭素化（エネルギー基本計画、温暖化による気候変動、再生可能エネルギーの導入拡大（太陽光発電など））
- ごみの減量・リサイクル
- 防災まちづくりへの対応

【当麻町周辺の動向】

○旭山動物園が入園者数を大幅に伸ばす
（平成 17 年頃）

→旭川市と愛別町、上川町方面を結ぶ道道愛別当麻旭川線の交通量が増大

○旭川空港・定期国際線
（韓国・ソウル便）の就航
（平成 18 年）
平成 25 年に台北線就航、そのほか上海、北京と結ぶ便が就航

→旭川圏への外国人観光客の増加

当麻町のまちづくり（土地利用・住環境）の課題（まとめ）

【現　状】	【課　題】
森林、農地など豊かな産業基盤と農産物のブランド化	当麻の産業を支える、豊かな田園、森林環境の保全が必要
人口減少・少子高齢化	人口減少社会・高齢化社会に対応した、コンパクトで使いやすい市街地づくりが必要
生活利便確保や雇用確保へのニーズ	子どもからお年寄りまで多様な世代が安心して暮らせる住まいやコミュニティづくりが必要
旭川圏の広域観光・交流の活性化 道の駅運営	高齢になっても、買物等生活利便に困らない環境づくりが必要
中心市街地の賑わい低下、空地・空き家問題、公共施設老朽化	農林業の振興や企業誘致を通じた、雇用環境の改善が必要
食育・木育・花育の推進	中心市街地、観光施設、集落などをつなぐ、移動のネットワークづくりが必要
	町民等のニーズに対応し、地域資源をいかした学び・交流の場づくりが必要
	広域観光を視野に入れたおもてなしの空間づくりが必要

◆理念・目標・方針

【まちづくりの理念】

食育・木育・花育による“心育”と心通わせる“つながり”の力で築く持続可能な地域の創造

～地域資源をいかした安全・安心で
魅力あるまち　とうま～

基本目標	基本方針
基本目標　1 **地域資源を“いかす”地域づくり** 豊かな自然や田園環境、優良な農産物をいかし、当麻町の魅力アップを目指します。	○既存の施設を有効活用する（空き地・空き家、空き店舗、公共施設） ○農地の保全 ○森林の保全 ○地域特性をいかした雇用の場の創出
基本目標　2 **人を“育てる”場をつくる地域づくり** 子どもからお年寄りまで集まり、憩い、活躍できる場の創出、魅力的な環境のもと、子ども達の豊かな心を育むことを目指します。	○多世代交流のできる場・住まいづくり ○地場の産業や自然に親しむ場・住まいの充実 ○子育て支援の場の充実
基本目標　3 **人と場を“つなぐ”地域づくり** 小さな田園のまちがもつ人づきあいや良好な地域コミュニティをベースに、生活の利便性を支えたり、町外からの交流人口を迎え入れるよう、人やサービス・基盤施設のネットワーク形成を目指します。	○町民の健康・活力を支える移動ネットワークの充実 ○来訪者と町民をつなぐ、道の駅の充実 ○駅前、中心市街地の魅力ある空間づくり ○町内外の観光地をつなぐ、アクセス動線の確保

将来の地域構造図

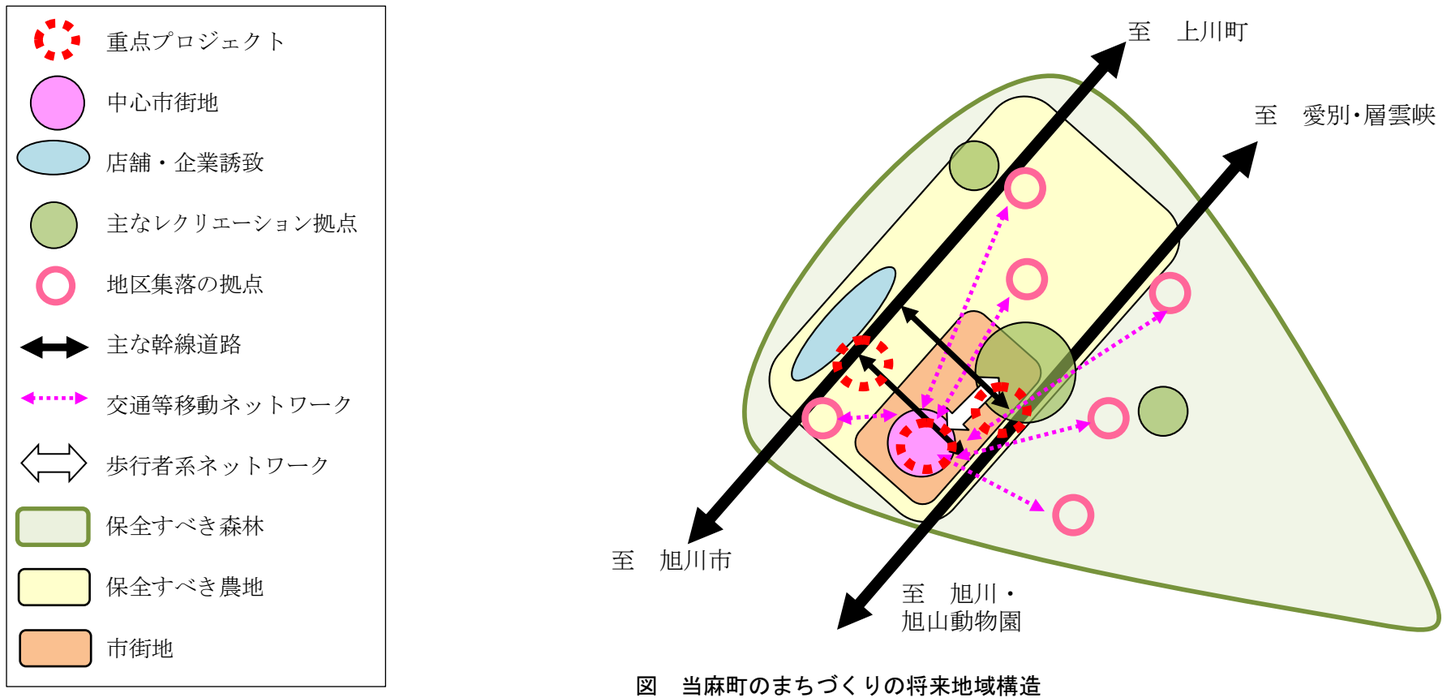


図　当麻町のまちづくりの将来地域構造

分野別の土地利用・住環境の整備・維持・活用方針

土地利用

(1) 市街地の範囲

・北は二丁目道路、東はとうまスポーツランド、南は道道愛別当麻旭川線、西は三条道路に囲まれた範囲を基本とします。
・交流人口の誘引に資する道道愛別当麻旭川線は、沿道部分も含めて必要に応じて土地利用を検討します。
・六条道路と五条道路の間の当麻川以西（５条東２丁目）は、従前は住宅地の開発が位置づけられていましたが、人口減少への対応とコンパクトで効率的なまちづくりを進める観点から、当面「農地保全ゾーン」として宅地の開発は見送るものとします。

(2) 山林・農地

・山林は、森林資源の保全を図るとともに、散策や自然体験の場として利用します。
・農地は、基幹産業の維持・発展を続けるため、引き続き保全を図ります。

(3) 住宅地

・豊かな自然と田園環境が身近にあるゆとりある住宅地環境の形成、上下水道の供給処理施設、ごみの収集や除排雪の体制が整った住環境を整備します。
・住宅においては、高齢になっても住みやすく、地域の木材の利用、太陽光発電など再生可能エネルギーを取り入れた住宅づくりを促進します。
・当町の充実した子育て支援環境とあわせ、身近に遊べる公園・広場の整備、コミュニティの充実により、子育てしやすい住環境を形成・PR します。
・市街地の西部縁辺部及び当麻川以西は、開発保留ゾーンを設定し、今後の観光交流、移住・定住施策、雇用環境創出等の動向からのニーズを踏まえ、必要に応じ宅地供給を検討します。
・中心市街地などでは、まちなか居住の推進に資する、集合住宅、高齢者住宅などによる居住の誘導を図るとともに、子育て世帯や若者も暮らし、様々な世代が交流できるコミュニティづくりに努めます。

(4) 商業・業務地、工業地

・商業ゾーン及び業務ゾーンにおいては、商店街活性化の取組を行う一方、まちなか居住の誘導、空店舗の活用、来訪者へのおもてなし空間の創出を積極的に行います。
・工業地においては、市街での林業、木工業の振興に資する土地利用の充実と国道沿道等への企業進出を促進し、雇用の創出・確保を図ります
・道の駅とうまについては、国道通過客の休憩憩いの拠点ブランド農産物の発信拠点として、さらなる発信力の強化、飲食をはじめとするサービス機能の強化を図ります。また、当麻市街へつながるアクセス動線として市街への交流人口の誘引を図ります。

道路・交通

(1) 道路

・国道、道道、町道の既存の幹線道路は、各管理者に、維持管理・整備を働きかけていきます。
・中心市街地や各地区及び観光・レク拠点では、来訪者へのホスピタリティ、バリアフリーに配慮した道路空間の整備に努めます。
・中心市街地ととうま山のスポーツ・レクリエーションゾーンを繋ぐ歩行空間の改善などにより町民の健康・活力を支える移動ネットワークの充実を図ります。
・道道愛別当麻旭川線は、沿道の拠点的なまちづくりとの連動を図るために、広域的な周遊ルートの一角として、円滑な通行のための整備に向け道に働きかけます。

(2) 交通

・既存の路線バスや JR 線の便を、事業者との協議のもと、将来にわたり確保していきます。
・買物・医療など、生活上の移動に不便を感じる場合には、バス等の公共交通網の充実に努めます。

公園・その他社会基盤

(1) 公園・レクリエーション施設

・町民の健康増進の場、子ども達の健やかな心と身体を育む場として、公園・レクリエーション施設の充実と利活用の促進を図ります。
・旭川圏の広域周遊観光の新たな人の流れに対応すべく、「くるみなの庭」「くるみなの散歩道」、スポーツランドと福祉拠点、木育推進拠点が連携した新たな交流拠点を形成します。
・当麻鐘乳洞・グリーンパーク、スカイスポーツ拠点の利用環境の維持・向上を図ります。

(2) 公共施設等

・公共施設の集まるエリアでは、各施設との連携を図れるよう、自動車利用や歩行者利用に配慮した動線、憩い空間の創出などの環境づくりに努めます。
・「当麻町公共施設等総合管理計画」に基づき、他施設との連携も考慮しながら規模の適正化を図ります。

(3) 上下水道施設等

・上下水道や橋梁などのインフラ施設については、引き続き適正な維持管理・運営を進めるとともに、長寿命化等予防的な修繕を図ります。

まちづくりの力点 ３つの重点プロジェクトを進めます

1

【道道愛別当麻旭川線沿道】

（仮称）ふれあい・観光交流拠点整備プロジェクト

○旭山動物園を行き来する通過観光客への沿道サービス機能の充実、福祉拠点とスポーツレクリエーション拠点、木育推進拠点などと連携した新たな交流拠点をつくります。

2

【中心市街地】

駅前・中心市街地の魅力・にぎわい向上プロジェクト

○まちの中心、顔として、店舗創業支援や空き店舗・空き地対策によるにぎわいの拡充、子どもからお年寄りまで各世代が支え合いながら暮らしていける快適で便利な市街地づくりを進めます。

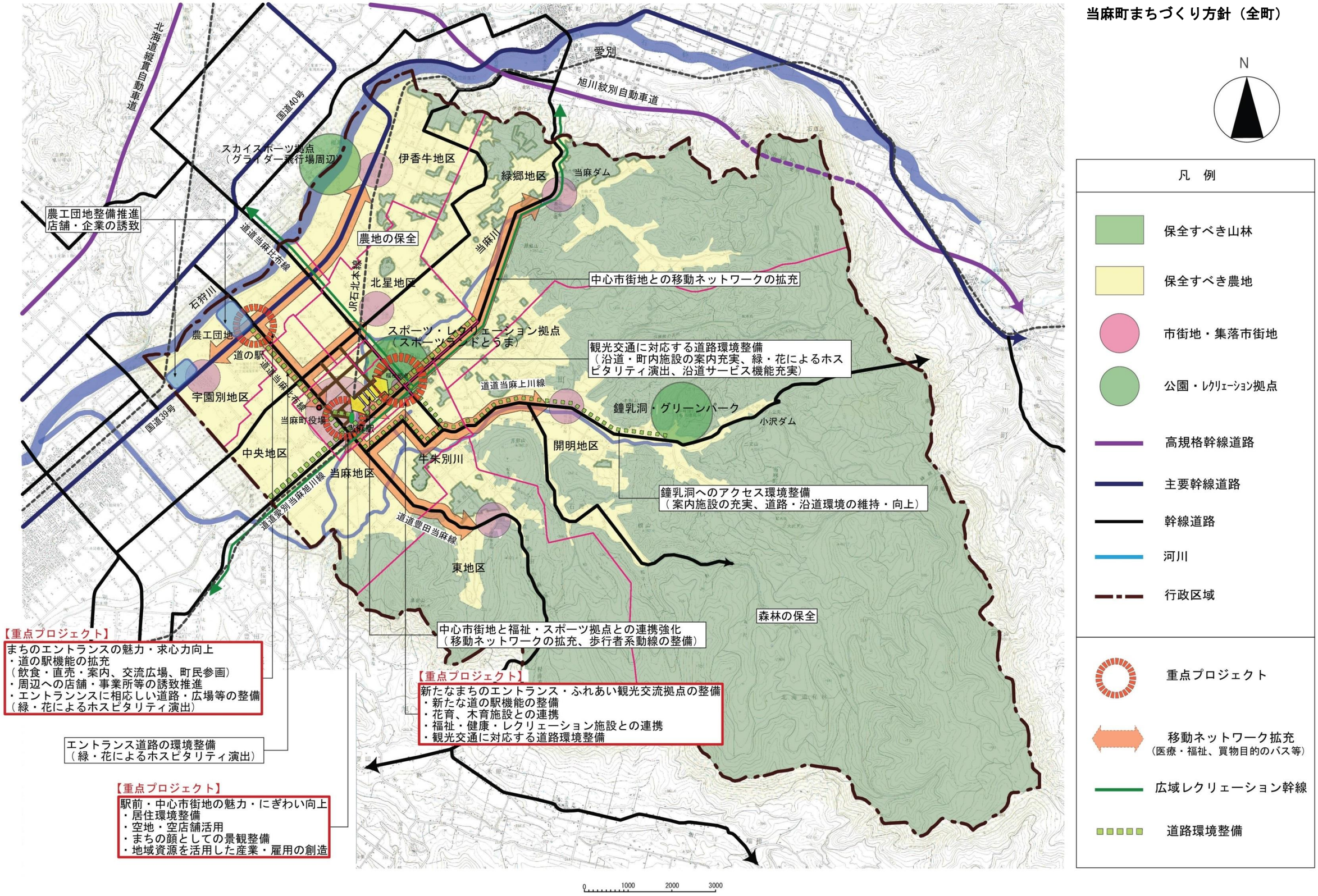
3

【道の駅周辺】

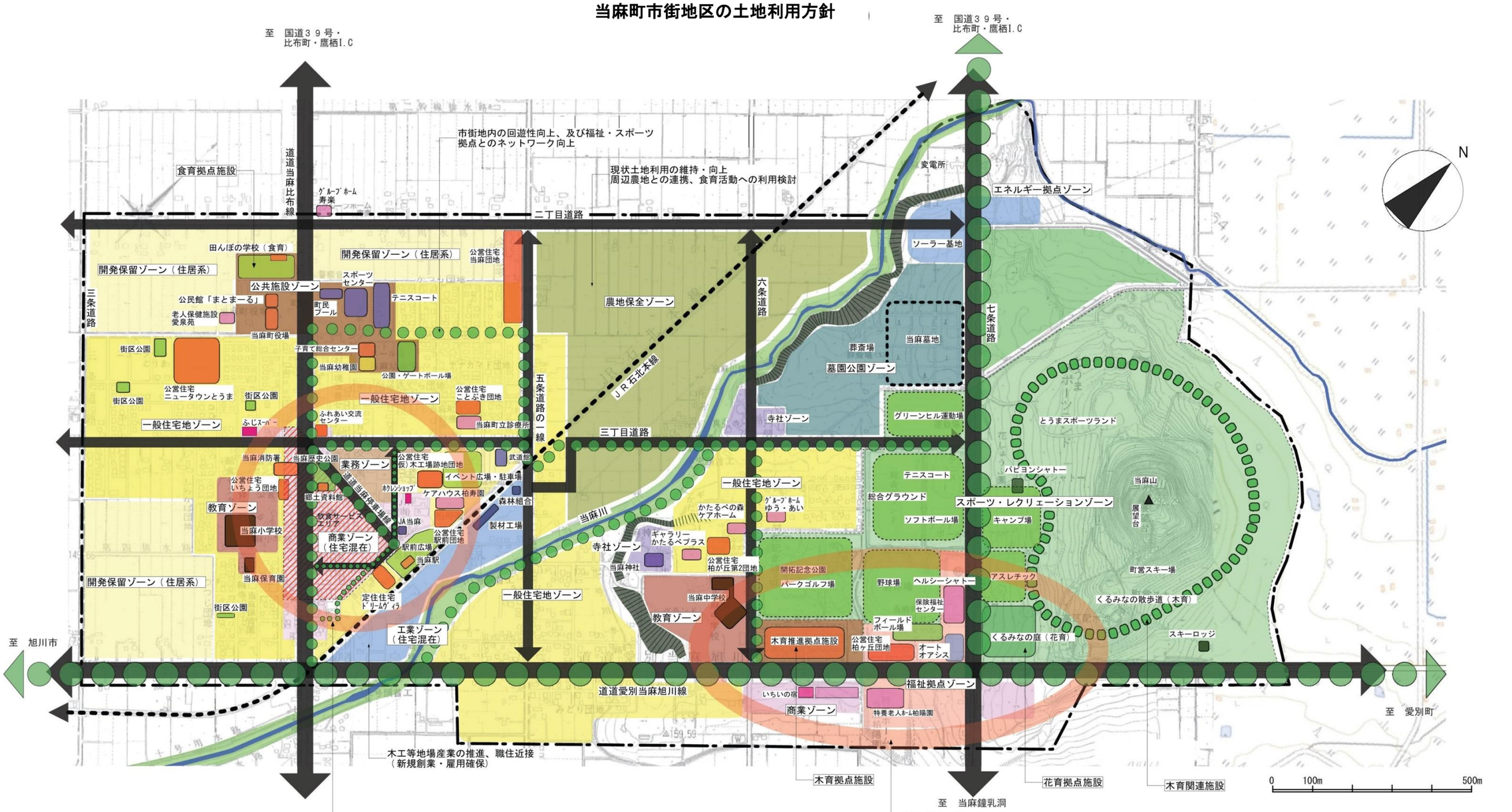
まちのエントランスの魅力・求心力向上プロジェクト

○道の駅とうまの農産物の発信機能や交流機能の受入機能の強化、当麻市街への交流人口の誘引、国道沿道企業立地の促進を図ります。

当麻町まちづくり方針（全町）



当麻町市街地区の土地利用方針



【重点プロジェクト】
駅前・中心市街地の魅力・にぎわい向上

⇒当麻町の「まちの顔」にふさわしい駅前・市街地景観整備
（駅前広場・道路の緑の拡充、花によるホスピタリティ演出）
⇒まち中居住の推進（公営住宅の整備推進、空家バンクの活用等）
⇒空地・空き店舗の活用推進（イベント交流広場・駐車場として活用、地域資源を活用した新規企業の誘致推進、店舗創業支援、町民交流サロン等）
⇒バリアフリー環境の整備推進（高齢者・障害者の移動円滑化の推進）

【重点プロジェクト】
ふれあい・観光交流拠点の整備・推進

⇒新たなまちエントランスとして道の駅機能の整備（道道利用観光客の取り込み）
特産品等直売所、トイレ・駐車場の充実、地域情報・観光案内
周辺施設との連携（ヘルシーシャトーでの休憩・温泉、くるみなの庭、パビヨンシャトー等）
⇒道道愛別当麻旭川線の歩行空間の充実、ホスピタリティに満ちた道路景観、沿道サービス機能の充実
⇒花育・木育施設による交流促進（木育推進拠点施設やくるみなの庭での体験・イベント等の開催等）
⇒福祉拠点機能の拡充（ヘルシーシャトーの活用推進、多世代交流、木育・花育施設・軽スポーツ施設との連携）
⇒スポーツ・レクリェーション施設の活用推進（既存施設の維持・活用、イベント・大会等の情報提供）

凡例

土地利用			道路等	
一般住宅地ゾーン	農地保全ゾーン	公共施設ゾーン	幹線道路	広域レクリェーションネットワーク（幹線）
商業ゾーン（住宅混在）	スポーツ・レクリェーションゾーン	教育施設ゾーン	補助幹線道路	日常的歩行者系ネットワーク（幹線）
業務ゾーン	墓園公園ゾーン	福祉拠点ゾーン	鉄道	日常的歩行者系ネットワーク（補助幹線）
工業ゾーン	寺社ゾーン			

実現に向けた課題・方策の検討

(1) 庁内横断的な検討体制

・「食育」「木育」「花育」「心育」による総合的なまちづくりの取組を進めるため、分野横断的な検討・実施体制が必要です。

(2) 事業化に向けた個別計画の検討

・本計画推進のために、より具体的な計画を作成し、設計・工事へと進めます。
・総合計画、本計画及び関連計画と整合が図られているかチェックします。

(3) 町民意見の反映とまちづくりへの参加

・「食育」「木育」「花育」、そして「心」を育む取組や活動を通じて、町民のまちづくりへ参画を促します。
・環境を良くすることと人づくりが互いに作用し、好循環を生み出すことで、持続可能な地域の形成を目指します。
・特に重点プロジェクトの推進において、町民のアイディア・意見を結集してよりよいまちづくりを進めていきます。

(4) 計画の検証・見直し

・本計画推進のために、数値目標あるいは KPI（重要業績評価指標）を設定し、計画推進の節目ごとに目標の達成度を計り、進捗管理を行います。
・PDCA サイクルを運用することにより、計画推進を継続的に改善していきます。

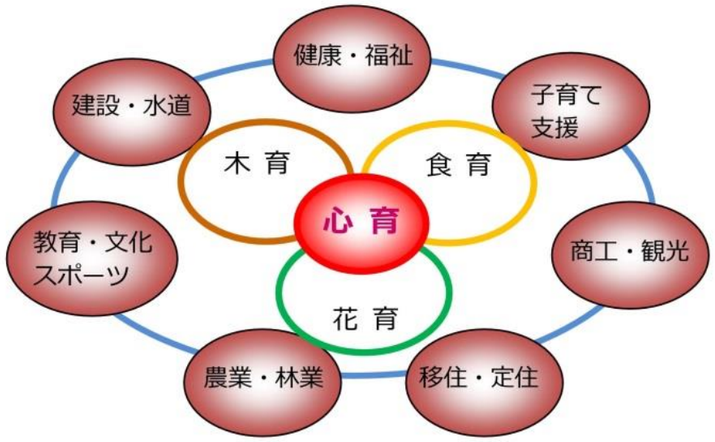


図　当麻町における、庁内横断体制のイメージ

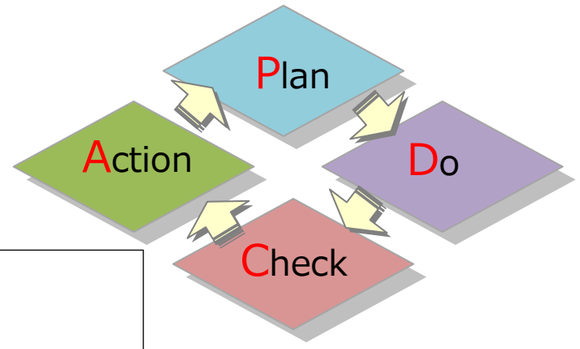


図　PDCA サイクルのイメージ

Ｐは　Plan　（計画）
Ｄは　Do　（実行）
Ｃは　Check　（評価）
Ａは　Action（改善）
PDCA サイクルとは、事業活動などの管理業務を円滑に行う手法の一つ。４段階のサイクルを繰り返すことで、業務を継続的に改善していきます。

◆本計画に関する
ご意見・お問い合わせは

当麻町　総務企画課

住所:北海道上川郡当麻町３条東２丁目 11 番１号
電話:0166-84-2111
URL:http://town.tohma.hokkaido.jp/

当麻鐘乳洞イメージキャラクター
りゅうた君